

<反対討論>

無所属の神原宏一郎です。ただいまより、2011年度豊中市国民健康保険事業特別会計予算の組替えを求める動議について、来年度(2011年度)の豊中市国民健康保険事業特別会計予算で、「保険料を値下げするために歳入で、一般被保険者国民健康保険料から、3億円減額し、繰越金を3億円増額するとあります。この3億円と言うのは、今年度の決算見込みが約6億6700万円の黒字を見込んでいることから、予算案の繰越金3億円にさらに3億円増額することを求める分とのことですが、決算見込みを信じて、来年度の繰越金にほぼ全額を計上することの危険性は一切考えておられないのでしょうか。

国民健康保険事業特別会計は、単年度収支が赤字傾向にあり、単年度収支の赤字分を前年度の繰越金で黒字を維持している状況にあります。

また、昨年度は、約7億円の単年度黒字になったとはいえ、2008年度(一昨年度)は、7億8900万円の単年度赤字になるなど、非常に不安定な財政運営となっています。

そのような中、確定もしていない決算見込みの黒字分を全て来年度予算の繰越金に計上し、保険料の値下げに充てることは、一見喜ばしい事のように思われますし、保険料が下がることは誰だって嬉しいことではありますが、何かあった時の財政的リスク回避ができず、国保会計のみならず一般会計に大きな影響が出る可能性があります。そんなことになると、場合によっては、現行以上の高額な保険料の設定が必要になるかもしれません。

そういう意味では、予算案で示されている繰越金3億円を計上し、保険料の据え置きを図り、尚且つ、不安定な国保会計において、一定のリスクマネジメントを行うことは賢明な判断だと私は思います。

「歳入の過大評価と歳出の過小評価は、将来世代、子どもたちにツケや負担を残すものになる。」と述べさせて頂き、2011年度豊中市国民健康保険事業特別会計予算の組替えを求める動議に対する反対討論を終わります。